

いじめ問題に関する評価の実施状況

評価項目	評価観点等の内容	評価 (最高4)	分析及び改善策 (○…成果、●…課題)
1 日頃の児童生徒理解	・日常的に生徒の言動を観察し、生徒が示す小さな変化や危険信号を見逃さないように努めているか。	3. 7	○マスク着用の生活が長くなり、生徒の表情が分かりにくくなっている分、日々の会話や生活ノートでのやり取りを重視している。
2 未然防止や早期発見	・定期的にアンケートを実施したり、日々観察したりするなどして、問題の把握に努めているか。 ・ささいな兆候であってもいじめとの疑いを持って早期発見に努めているか。	3. 5	○日常的な観察に加え、月1回の生活アンケートを定期的実施している。 ○いじめの芽もいじめという認識のもと、小さな出来事でも見逃さず職員間で共有した。結果、認知件数は増加したが、早期の適切な対応につながっている。
3 いじめへの迅速適切な対応	・いじめの通報・発見があった際に、速やかに関係教職員に連絡し、情報を共有し、対応しているか。 ・生活アンケートや個人面談で正確な情報収集を行い、生徒の寄り添う指導を行っているか。	3. 8	○日頃から学年所属職員を中心としたコミュニケーションを行い、同僚性・協働性を高めている。問題等が起こった場合は、学級担任だけでなく、学年主任や生徒指導担当も関わり迅速に対応している。
4 組織的な取組	・日常的に、生徒指導部会や学年部会を中心として生徒の情報を共有しているか。 ・いじめが起こった場合には、対策委員会を中心として、機動的、組織的に対応する体制が整備されているか。	3. 7	○生徒指導部会と特別支援教育部会を週1回設け、教職員全体での情報共有を図っている。同部会で、個々のケースの検討を行い、必要に応じて外部機関との連携を行い、組織的に対応している。
5 方針等の共有 (保護者・地域)	・「いじめ防止基本方針」や「家庭教育10か条」の内容を家庭・地域に周知し、その内容や取組の共有を図っているか。	2. 9	●ホームページに「いじめ防止基本方針」を掲載したり、学校だよりの中で、「家庭教育10か条」に触れたりしているが、その内容が保護者に十分周知されているとは言いがたく、更なる周知の方法を模索する必要がある。
6 その他 学校教育目標の実現	・「豊かな人間性を身に付け、たくましく自分の人生を切り拓いていく生徒の育成」という学校教育目標の実現に向けて努力しているか。	3. 2	○学校教育目標の具現化に向けて、キャリア教育を柱とした資質・能力の育成に係る研究に2年間取り組んだ。 ●キャリア教育と日々の教科等の学習を関連付けていくことが今後の課題である。